

関高校 『祭よ今宵だけは悲しげに～銀河鉄道と夜～』

◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽

関高校さんは「物語が奥深すぎる賞」です。

この劇を見たあと、まず最初に思ったのが考えれば考えるほど、一つ一つのシーンが色々な見え方ができて、奥深く、考察のしがいがあるなと感じたからです。

私もこの劇を演出した経験があります。私には思いつかなかった演出が見られて、参考になりました。

全体的に、装置は少なめなだったけれど、そんなステージを広く使ってキャストが精一杯動いていました。音響がシーンにぴったりで、照明も場面にあわせて変化させるというように、装置の少なさをキャストや他のスタッフワークで変化する各シーンに対応していたのかすごいと思いました。転換の手間が省けるし、あえて場所を限定・視覚化しないことが自由な想像を巡らせている、この脚本ともマッチしていると思いました。

キャストはみな感情豊かで、特にジョバンニの演技がうまいと思いました。「自分がカンパネラを殺してしまった」と気付いたときの痛切な叫びに心揺さぶられました。全体的にテンポがよかったけれど、その分単調になりがちなので、ゾンビあたりの動きやセリフを変化させるとよかったのではないかと思います。

講評委員会では、テーマは、「ジョバンニの幻、ループからの脱出」「一番の幸せを見つけること」で、「ジョバンニは現実を受け入れたからループから脱出できた、一番の幸いを見つけられた。」「現実を受け入れないことには始まらない。」と考えました。でも、「なぜ、ここにいることが一番の幸いなのか?」「最後の『銀河鉄道、星を降らせ』とはなんなのか?」というような疑問が相変わらず残りました。

高校演劇の名作で、いろいろな高校が演じている、奥深いこの物語に取り組むのは、いろいろな苦労があったと思います。私も演出をただけに、その苦労がよく分かります。関高校の皆さんは、できるだけシンプルにストレートに伝えようとしていました。その姿勢に好感を持ちました。

関高校の演劇部の皆さん、お疲れ様でした。

◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽